

資料 1

RBM (リスクベースメンテナンス) とは

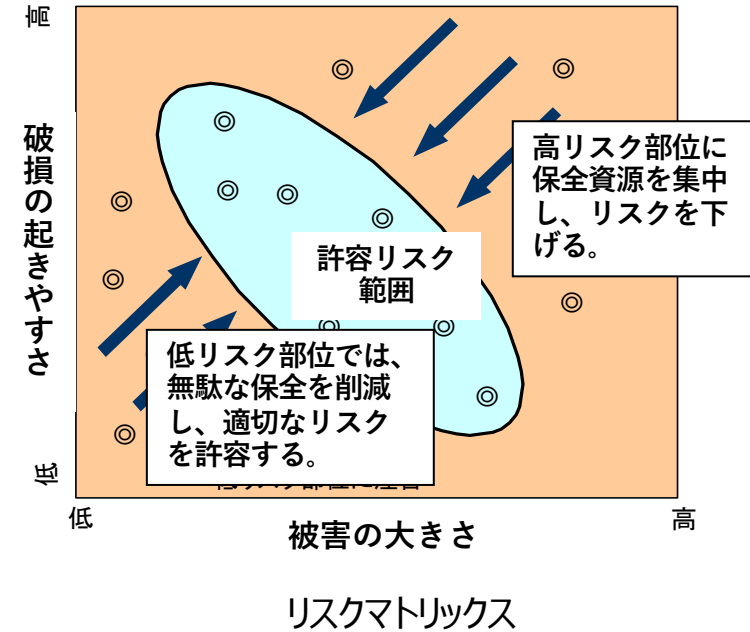
RBM(Risk Based Maintenance)は、対象設備の各部位のリスク(「**破損の起きやすさ**」×「**破損による被害の大きさ**」)をマトリックスにプロットし、すべての部位を許容リスク範囲に保つためのメンテナンス手法です。

ベストマテリアの世界的基準に基づくリスク算定ソフトと熟練技術者のコンサルティングによってこの手法を提供し、プラントや設備の長期的信頼性確保と保全コストの最適化に貢献します。

これまで主に圧力容器、ボイラなどの静機器および配管に提供されてきましたが、回転機および機能機器(ケーブル、電気・計装類・弁など)への適用方法を確立し、プラント内のすべての設備機器を同一次元でのリスクを基準とする保全が可能となりました。

ベストマテリアのRBM手法

1. 評価一覧表の作成: 同一破損条件となる部位を 1 評価単位とする
2. リスク評価
 - 2.1 破損の起きやすさ(PoF)算定: 懸念される損傷機構を決定して、使用条件・検査の有効度から算定する。
 - 2.2 破損による被害の大きさ(CoF)算定: 安全、環境、経営に及ぼす被害の大きさを算定する。
3. 保全計画
実施する保全方法によるリスク変化のシミュレーションを行って、各部位で保全計画(保全方法・時期)を提供する。
4. 使用するツール
 - 4.1 uni-Planner API 581に準拠したリスク評価ソフト(株)IMC作成、管理
 - 4.2 各部位で懸念される損傷機構の設定は、損傷機構設定AI (FPAI)を使用



特定認定事業者制度*を取得した事業者は、RBM 実施により、最大 8 年までの中で、定期検査時期を自由に設定することができます。
*2017年4月1日に創設された、経済産業省の定める認定制度。